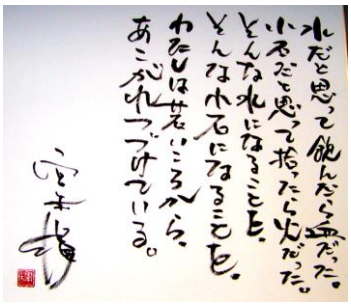
追手門学院大学附属図書館

宮本輝ミュージアム

2008 年、学校法人追手門学院は創立 120 周年を迎えました。「宮本輝ミュージアム」は、学院の創立 120 周年事業の一環として、2005 年 5 月、追手門学院大学附属図書館を改修し、開設しました。「宮本輝ミュージアム」では本学第一期卒業生で、作家として活躍する宮本輝氏の愛用品、直筆原稿などを常設展示しています。また、作品の世界を取り上げた企画展を開催し、広く一般の方へも公開しています。

宮本輝氏の著作を通して、学生及び市民の皆様に感動と共感の場を提供できれば幸いです。



宮本輝ミュージアム展示品リスト

【東側】

◎年譜　　◎自筆の詩（ガラス板）

≪年譜下ガラスケース≫

●広辞苑　●インクと万年筆　●直筆原稿（複製）「生きものたちの部屋（3）『インクと万年筆』」

●湯のみ　●懐中時計（芥川賞正賞）　●グラス　●小物入れのかご　●水差し　●墨、筆

●硯　●自筆の書「正直であるということの凄さ」（複製）

○追手門学院大学第一期生卒業記念アルバム（在学中の写真）・第二期生卒業記念アルバム（茨木学舎全景）

○追手門学院大学三十年史　「創立三十周年を祝して（宮本輝）」

○読売新聞記事　昭和 57 年（1982）7 月 26 日（月）夕刊　1 面・3 面　パネル

【北側・展示架】

①作家活動のはじまり

1977 年デビュー作「泥の河」と「螢川」を相次いで『文芸展望』に発表。「泥の河」で第 13 回太宰治賞、「螢川」で第 78 回芥川龍之介賞を受賞した。この 2 作は 1978 年に発表された「道頓堀川」とともに「川三部作」として著者の代表作となった。

『螢川』『道頓堀川』『川三部作　泥の河　螢川　道頓堀川』『幻の光』『星々の悲しみ』

②初期の作品

芥川賞受賞後、肺結核を発病し、約 2 年間の療養を余儀なくされた。復帰後、旺盛な創作活動が開始される。

『ドナウの旅人（上・下）』　『錦繡』と冒頭部分原稿（複製）

③初めての海外取材

1982 年「ドナウの旅人」執筆取材のため、ドナウ川流域を訪問。以後、毎年のようにヨーロッパ諸国等へ取材旅行。

『異国の窓から』

④映画化された代表作

1982 年「泥の河」が小栗康平監督によって映画化され、モスクワ国際映画賞銀賞ほかを受賞した。

以後、多くの作品が映画化、ドラマ化されている。
「優駿」競走馬の世界を描いた作品で、日本中央競馬会から第一回馬事文化賞を受賞。
1987 年に吉川英治文学賞を受賞し、1988 年映画化された。
『優駿（上・下)』　映画『優駿』DVD と映画パンフレット　　映画『幻の光』　ビデオ

⑤海外を舞台にした作品
『愉楽の園』　タイを舞台にした作品。著者が最初に書いた小説「弾道」が作品の原型となっている。

⑥青春時代を描いた作品
『青が散る』と連載第 1 回冒頭部分原稿（複製）　　新設大学に入学した椎名燎平はテニスコートのないテニス部に所属する。燎平の恋や友情、青春をテニスとともに描いた作品。
『春の夢』『二十歳の火影』

⑦“父と子”を描くライフワーク『流転の海』
敗戦後の昭和 22 年、50 歳で長男を得た松坂熊吾の半生を描く大河小説。1982 年著者 35 歳の年に執筆が開始された。当初は全五部作の予定だったが徐々に延び、現在は全九部作となる予定である。
連載第 1 回冒頭部分原稿（複製）と『流転の海　第一部』(福武書店)
第一部『流転の海』　第二部『地の星』　第三部『血脈の火』　第四部『天の夜曲』　第五部『花の回廊』
第六部『慈雨の音』　第七部『満月の道』　第八部『長流の畔』　第九部『野の春』(新潮社)

⑧青春と読書
13 歳の日、井上靖著『あすなろ物語』を読んで以後、読書に耽溺した。本や小説は、波間にただよう小舟のような、14 歳から 18 歳までのよるべない時代の支えのような存在であっただろう。
『本をつんだ小舟』思い出の作品と読書体験を記した作品。宮本輝編纂のアンソロジー集

⑨『川三部作』
筑摩書房　1985 年刊。限定 200 部中の第 187 番

⑩作家　宮本輝を知る本
『新潮四月臨時増刊　宮本輝』新潮社　1999 年 4 月刊

⑪「優駿」
連載第 1 回冒頭部分原稿（複製）

⑫海外に翻訳された作品
1986 年の『泥の河』中国語版発行以後、中国語、フランス語、英語、ハングル語、ロシア語などへの翻訳書が多数刊行されている。
『彗星物語（上・下)』(原書　角川書店 1992 年刊）とハングル語版（Koreaone Press1993 年刊）
訳者は金賢姫

⑬恋愛をテーマにした作品
『私たちが好きだったこと』

⑭「ドナウの旅人」以降の新聞連載（１）

『花の降る午後』角川書店　1988 年刊（1985 年 7 月～1986 年 2 月『新潟日報』等に連載）

『海岸列車（上・下)』毎日新聞社　1989 年刊（1988 年 1 月～1989 年 2 月『毎日新聞』連載）

『ここに地終わり海始まる』講談社　1991 年刊（1990 年 3 月～11 月『福島民友』等に連載）

⑮「ドナウの旅人」以降の新聞連載（２）

『朝の歓び（上・下)』講談社 1994 年刊（1992 年 9 月～1993 年 10 月『日本経済新聞』連載）

『人間の幸福』幻冬舎　1995 年刊（1994 年 5 月～1995 年 1 月、『産経新聞』連載）

『草原の椅子（上・下)』毎日新聞社 1999 年刊（1997 年 12 月～1998 年 12 月『毎日新聞』連載）

『約束の冬（上・下)』改訂版文藝春秋 2004 年刊（初版 2003 年刊）（2000 年 10 月～2001 年 10 月『産経新聞』連載）

⑯阪神淡路大震災後の作品

作家自身もこの大震災によって被災した。震災の渦中、日々増大していく被害は、連載終盤を迎えていた『人間の幸福』最終章にも影響を与えた。

『森のなかの海（上・下)』震災当日の朝から始まる物語

⑰シルクロードへの旅

1995 年 5 月、約 1700 年前に膨大な経典の漢語訳をなした鳩摩羅什（クマラジュウ）の足跡を辿る 40 日間にわたるシルクロードの旅に出た。**『ひとたびはポプラに臥す』旅の紀行文集**

『星宿海への道』　『胸の香り』シルクロードの旅に題材をとった短編「道に舞う」を収録。

⑱2005 年ミュージアム開設以後の発表作品

『にぎやかな天地（上・下)』中央公論新社 2005 年刊（2004 年 5 月～2005 年 7 月『読売新聞』連載）

『骸骨ビルの庭（上・下)』講談社　2009 年刊（2006 年 6 月～2009 年 2 月『群像』連載）

『三千枚の金貨（上・下)』光文社　2010 年刊（2006 年 4 月～2009 年 8 月『BRIO』連載）

『三十光年の星たち（上・下)』毎日新聞社　2011 年刊（2010 年 1 月～2010 年 12 月『毎日新聞』連載）

『水のかたち（上・下)』集英社　2012 年刊（2007 年 10 月～2012 年 7 月『éclat』連載）

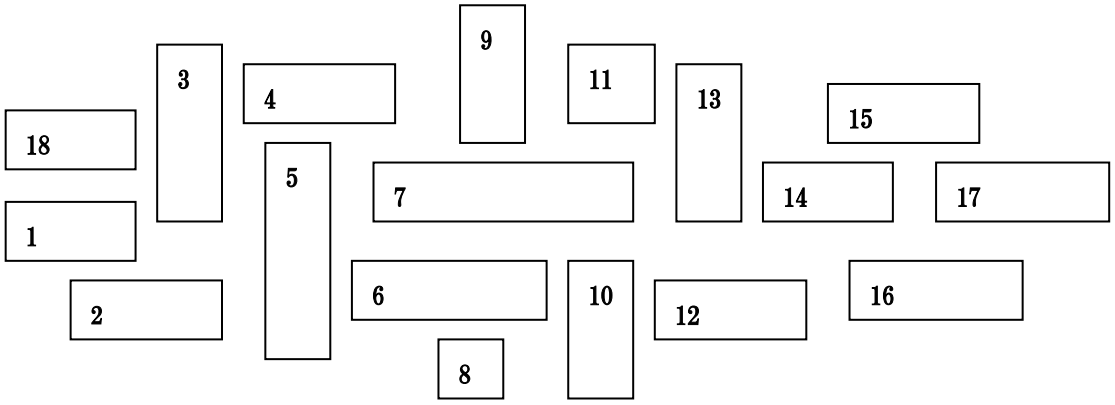
『田園発港行き自転車（上・下)』集英社　2015 年刊（2012 年 1 月～2014 年 11 月『北日本新聞』連載）

『草花たちの静かな誓い』集英社　2016 年刊（学芸通信社の配信により 2014 年 3 月～2016 年 8 月の期間、順次連載）

『灯台からの響き』集英社　2020 年刊（北日本新聞社の配信により 2019 年 2 月～2020 年 1 月の期間、順次連載）

『よき時を思う』集英社　2023 年刊（2021 年 1 月～2022 年 10 月『すばる』連載）

北側展示架番号　※上記番号は展示架の番号です



追手門学院大学附属図書館宮本輝ミュージアム　　開催期間：
2023 年度後期企画展　　2023 年 10 月 2 日～2024 年 3 月 19 日

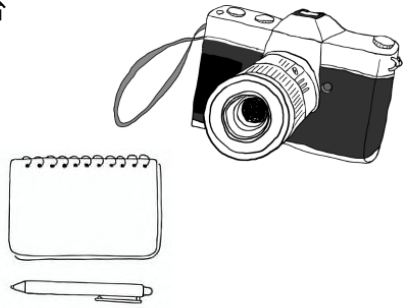
「灯台からの響き　読書が照らす新しい世界」展

■ 「灯台からの響き」紹介

- 「灯台からの響き」作品紹介パネル
- 「宮本輝 取材旅行」パネル
- 「牧野康平の愛読書」パネル
- 「牧野康平がめぐった灯台」パネル
- 名言バナー

表面　取材旅行 資料と写真　（ご提供：宮本輝氏）

- 房総半島灯台めぐりざっくり行程、灯台巡り MAP
  写真：安房小湊駅、洲埼灯台、犬吠埼灯台
- 出雲日御碕灯台へ行程表　写真：出雲日御碕灯台、美保関灯台
- 龍飛埼灯台へ行程表　写真：龍飛埼灯台、尻屋埼灯台
- 「灯台からの響き」第 4 回取材行程
  写真：鳥羽港、伊良湖岬灯台、大王埼灯台
- 愛媛周辺灯台巡り地図
- 『ニッポン灯台紀行』（2015 年 4 月刊 世界文化社）



裏面　「灯台からの響き」関連資料

- 「灯台からの響き」連載にあたって（『北日本新聞』2019 年 1 月 1 日）
- 『灯台からの響き』初版本（集英社 2020 年 9 月刊）、文庫本（集英社文庫 2023 年 6 月刊）
- 特集インタビュー 宮本輝『灯台からの響き』（『青春と読書』2020 年 9 月号）
- 宮本輝(作家)『灯台からの響き』（『灯台』2021 年 5 月号）
- 特別インタビュー関西と文学を語る（『潮』2021 年 4 月号）
- 宮本輝『灯台からの響き』今週の話題の新刊（『女性自身』2021 年 2 月 2 日号）
- 書評「灯台からの響き」（『文學界』2020 年 12 月号）
- 「灯台からの響き」 紹介（『ナツイチ』 2023）

■ 灯台紹介　（ご提供：公益社団法人燈光会）

ペーパークラフト

龍飛埼灯台、大間埼灯台、尻屋埼灯台、犬吠埼灯台、勝浦灯台、洲埼灯台、野島埼灯台、神島灯台、菅島灯台、伊良湖岬灯台、大王埼灯台、安乗埼灯台、野間埼灯台
出雲日御碕灯台

映像

出雲日御碕灯台、犬吠埼灯台、勝浦灯台、洲埼灯台、大王埼灯台、安乗埼灯台、尻屋埼灯台

■ 読書コーナー

- 「宮本輝の推薦図書」パネル
- 「本をつんだ小舟」パネル

〒567-8502　大阪府茨木市西安威 2-1-15 追手門学院大学附属図書館宮本輝ミュージアム
2005 年 5 月 21 日発行 2023 年 10 月 2 日改訂（第 41 版）